

胃 集 団 検 診 （ 地 域 ）

動 向

平成16年度住民対象の胃がん検診の受診者数は、17,348名で前年比468名の増加となった。増加したおおきな要因はなく、各市町村ともほぼ前年と同じであった。

県の集計によれば、地域の胃検診の対象人口は約90万人であり現行のカバー率は約7%前後であることを考えると一層の受診率向上が必要である。

受診者数を増加させるためには初診者の掘り起こしが必要であるが、近年受診者の初診率は低迷しており、今後各市町村とも初診者増加対策を練る必要があると思われる。

又、現在がん検診は市町村の単独事業として実施されているが、胃がん検診の有効性は厚生省の研究班により証明されており、住民サービスの低下の無いよう今後益々の受診率向上が望まれる。

一方、協会では神奈川県消化器集団検診機関一次検診連絡協議会の事務局を前年度に引き続き担当し、会の運営に協力している。

方 法

平成16年度は胃検診車9台で対応してきた。撮影方法は前壁レリーフ像又は薄層像を取り入れた撮影法で行い、造影剤も高濃度造影剤を採用し、より情報量の多い画像の提供が可能になっている。今後更に情報量の多い診断能の高いX線写真の提供に努力していきたい。

地域検診における受診傾向は高齢化と体の不自由な方の受診が多くなった。また、便秘への不安もあり高濃度化には不安があったがバリウムメーカーの努力により高濃度化による便秘はほぼ解消されたが、水分摂取が無ければ便秘するので必ず検査終了後は水分を十分とるよう指導する必要があります。

撮影枚数は7枚法で100mmサイズのフィルムに記録され異常が認められればその場で追加撮影が行われる。

精密検査が必要な人は地元医師会で直接X線検査や内視鏡検査が実施される。その結果は医師会・行政・協会も参加して1次スクリーニングの写真や精

密検査の資料が持ち寄られカンファレンスで検討することが行われている。

結 果

地域検診では表に示すように19市町村で実施された。1次検診の結果、精密検査が必要な人は男性6,966人、女性10,382人、男女合計は17,348人で、地域検診のほうを受診者数の推移が高い。職域では男性が多く、地域では女性が多い。

要精密検査は3,403人・19.6%と職域に比較すると高い。男女別では男22.8%、女17.5%である。精密検査を受診した人は2,040人59.9%と低調である。ここから発見された癌は、報告された人のみではあるが胃がん確定27人、その他確定診断は胃ポリープ及びポリープは514人、胃潰瘍及びその癒痕は129人と比較的少なく、群別管理が正常に機能し1次検診に経過観察者の混入が少ないことを示唆していると考ええる。同様に十二指腸潰瘍及びその癒痕も115名である。

各市町村別には表に示すように19市町村で実施され、全ての項目において変動幅が大きい。未受診者対策は協会では把握できない部分ではあるが、精検未受診者には何らかの方法で受診勧奨が必要であり、要精密検査の指示がでたら必ず受診してほしいと願わずにはいられない。

関係の集計表は71頁に掲載